千葉敬愛短期大学
CHIBA KEIAI JUNIOR COLLEGE
校友会報
vol.23

発行日／平成27年9月18日　編集・発行／千葉敬愛短期大学校友会　発行責任者／片山　喜久子　〒285-8567　佐倉市山王1-9　TEL.043-486-7111

「会員相互の交流を実現する校友会」

校友会 会長　片山　喜久子（昭和48年卒業）

初めまして。平成26年度校友会総会において会長に選出されました片山です。どうぞよろしくお願いいたします。初めてご挨拶申し上げます。

地球温暖化の影響が表れ始めたからでしょうか、最高気温や猛暑日の記録更新が続く夏が数年続いています。そして、熱中症により、救急搬送される人の数も記録的という今年の夏でした。老人や体の不自由な人だけでなく若者や子供までがその影響を受けています。そんな中で、夏休みの終わりを迎えた児童生徒が不登校気味になって、周りの大人を心配させることがあります。ところが、最近は子どもだけでなく、教員も環境不適応を訴えることが珍しくないと聞きます。夢や希望に後押しされて、苦しい受験競争にも厳しい採用試験にも打ち勝ってここまで来たのに、「今なぜ?」と不思議に思います。人それぞれに原因や理由があるようですが、大事なことは身の回りに心を開いて相談できる友人や先輩がいるかどうかではないでしょうか。

今日、誰でも少なからず不安を抱えながら生きています。

それでも頑張れるのは、「自分は一人ではない」という自信です。頼り頼られ、助け助けられて、共に歩む存在が必ずいるということです。

そんなことはこれまでの人生できっと教わっていると思います。新しい環境の中にそんな存在を早く見つけて欲しいと思います。

この千葉敬愛短期大学校友会は設立二十三年目を迎えましたが、会員は実に年齢層が広く八十歳を越える先輩もいらっしゃいます。会の設立以前は、卒業時に会に加入するかどうか意思表示をしたので、会員数は年度によってばらつきがあります。今は、入学時に準会員として会費を支払いますから、ここのところ着実に会員数を増やしています。

そうした校友会ですから、教育現場にいる方が多いながらも、様々な職種についている方もいます。この仲間たちの情報や経験は、校友会の財産だと思います。

仕事や人生に躓いたときに、信頼できる人かどうか見極めきれないと心配された方は、校友会の仲間や先輩に相談してみませんか?きっと有効なアドバイスがいただけると思います。

私は、在職中に前学長の伊藤勝博先生が千葉敬愛短期大学の学生に教育実習のご指導をされていらしたご縁で学生を受け入れたことから、校友会との関わりが始まりました。伊藤先生は千葉市の中学校で校長をされていたので以前から存じ上げておりました。千葉市の教育研究会が発行する会誌の巻頭言に伊藤先生が「ノンバーバル教育」という言葉を書かれていたのを読んで以来、自分自身の教育者としての在り方に座右の銘のようにしてきました。言葉を遣う仕事をしているからこそ、言葉以外のしぐさやまなざし、背中が示す無言の信念などが、子どもの教育に大きく関わるということです。

今、私は退職後様々なボランティア活動をしておりますが、ノンバーバル実践はここでも生きてきます。大人も言葉を正しく使いきれていない場面に多く出会います。心の様子は、言葉で表現しきれない部分を持っていることを実感するときです。

校友会の組織は確実に大きくなってきています。会員相互の交流をもっともっと多くしていく工夫が必要です。そこで、会員の皆さんが参加してよかったと思えるように、出会いの場を増やしたいと考えています。文字通り、「顔が見える校友会」にしたいのです。その具体策は総会で決定されます。三月の卒業式で委嘱された幹事の高木さん、犬飼さんが新しい会員のパイプ役になってくださることを大いに期待しております。同時に、ここ五、六年の幹事さんたちも、役員会に是非ご出席いただき、会員の声を伝えてください。

千葉敬愛短期大学校友会を大切に思う気持ちを共有しながら、皆で活発な運営を築き上げていきましょう。皆様の持てる様々なアイディアお待ちしております。

今年も、総会、敬愛フェスタ等で多くの会員と交流を深めましょう。

「KEIAI☆フェスタ2015」

KEIAI☆フェスタ実行委員会 委員長　内田 依里（2年）

10/24（土）▶10/25（日）
KEIAI☆フェスタ開催!

私たちKEIAI☆フェスタ実行委員会は、10月23日から25日にかけて行われる学園祭に向けて日々準備に励んでいます。

今年のテーマは「咲」です。「咲」は「わらう」という意味もかけました。KEIAI☆フェスタを通じ、学生はもちろん地域の方、来場してくださった皆さんが笑顔になれたらいいなと思っています。

また、日々高め合い支え合いながら毎日の学校生活を楽しみ、共に夢に向かい学んでいる仲間とすてきな思い出をつくり、その思い出をこれからの自分の自信につなげてほしいという思いから「Everyone's smile come out ～みんなの笑顔が咲く～」にしました。そして1人ひとり成長し、次の夢舞台に進めるようなKEIAI☆フェスタにしたいと思います。

今年は310名という多くの学生がスタッフとなり、フェスタを盛り上げるために協力し日々準備を行っています。昨年1年生だった私たちはいろいろなことを先輩方に教えていただき、初めての学園祭を楽しむことができました。1人ひとり行う作業も増えた今年は後輩たちを前にでて引っ張り、時には影で支えるということも2年生にとって大切なことだと感じながらフェスタにむけて進んでいます。310名の多くのスタッフの力、昨年の経験を活かし素晴らしいKEIAI☆フェスタをつくりあげていきたいと思います。

伝統を引き継ぎながら、今までとは一味違うようなフェスタをお届けできるようスタッフ一丸となり頑張っていきます。ご都合が合いましたら是非お越しください。学生による手作りの学園祭を楽しんでいただき、たくさんの笑顔で溢れかえることができたら幸いです。皆様のご来場、心よりお待ちしております。

「私の思い」

学生会長　大沼 博明（2年）

私たち二年生が入学して一年六ヵ月が経過しましたが、皆さんは近頃何を考えていますか。

私は、暖かい心を持った友人たちと接することでとても充実した日々を過ごすことが出来、千葉敬愛短期大学に入学して良かったと心から思っています。

入学当初は、千葉敬愛短期大学の一週間の時間割を見て、とても忙しく驚きました。しかし、教育に関わる数々の講義を受講したり、授業中や休み時間に友人と話し合ったり、先輩に相談に乗ってもらったり、大学の先生からの暖かいアドバイスを聞きながら、大学生活を送る中で、少しずつ私の目標に近づいていることを感じていました。

観察参加実習や教育実習では大変だと思うことも多くありましたが、終わってみると私にとって大きな自信となりいい経験になりました。児童から、先生と呼ばれたり、周りの先生から暖かい言葉を貰ったことで嬉しい気持ちになりました。このような日々を送る中で私の中で教員になりたいという思いが更に強くなりました。

千葉敬愛短期大学は、人との人間的な触れ合いが多くあります。辛い時は支え合い、楽しい時は笑い合い、共に成長していける仲間が出来ることが魅力の一つです。

行事では、みんなが頑張り過ぎるあまり、時にはクラスの中で対立してしまうこともありますが、そんな時はクラス全員でどうすればいい方向に進むことが出来るか話し合います。また、先生方もその様子を見守ってくれます。

そういった経験を繰り返しているうちに、友達との関係が自然に形成されていきます。

今では、ひとりひとりが私の中で大切な友人です。

私が学生会長に立候補した理由は、私の夢や希望を大切に育ててもらった先生方や学生の皆さんのために恩返しがしたいと思ったからです。

残りの大学生活も六ヵ月となりましたが、私は何事にも一生懸命に取り組み、周りの人たちを幸せにしていきたいです。

◆**お知らせ**　会員の皆様へ会報を送付しておりますが都合で返送されてくる方がおります。都合により送付不要の方は校友会事務局迄ご連絡下さい。

学長あいさつ

千葉敬愛短期大学
学長 明石 要一

学長に就任して、早一年半が過ぎようとしています。この間の短期大学の新しい動きを紹介します。

①全国の短大スポーツ大会連続50回出場

私立の短大は全国319校あります。その中で初回から連続50回出場した大学は、本学を含めて3校だけです。8月に大会会長から表彰状と記念のモニュメントをいただきました。これはひとえに、卒業生たちの並ならぬご尽力があったからだ、と思っています。

②副学長を置く

四月から法律の改正で学長の権限と責任が強くなりました。学長がしっかりマネージメントをしなさい、という要請です。

副学長制度を取り入れました。学長を補佐してもらいます。私に何かあったとき、代行できる仕組みです。

③幼稚園園長に大学から就任

ご承知のように千葉の高洲に短大の附属幼稚園があります。これまで九年間、大学の教員が園長をしていませんでした。附属でありながら、大学との交流が少なかったのです。そこで、4月から山中副学長に附属の園長になっていただきました。園内の研修を増やし、できたら公開研究会も開いてもらう予定です。

④大学で初の授業参観

小学校、中学校では保護者に授業を見ていただく授業参観が当たり前です。しかし、高校や大学ではなぜか少ないのです。とりわけ大学にはそうした発想はありません。

たぶん日本で初めてですが、短大で保護者を対象に授業参観の日を設けました。お陰様で多くの方にきていただきました。翌日の朝日新聞の千葉版に紹介されました。

大学も「授業で勝負」という時代になっています。研究もおろそかにしませんが、学生相手の日々の授業力アップが今一番求められています。

⑤おまけ、「幸福の木」の花が咲きました

本部の二階に幸福の木が三本あります。今年、その一本の木に花が咲きました。なかなか珍しいそうです。幸福の風が吹いています。

校友会の皆様にも、「幸せ」の香りが届くことを祈っています。

戦後70年

校友会 副会長
大塚 孔久
（昭和57年卒業）

「戦後70年」今年の夏のキーワードといえる言葉ではないでしょうか。様々なメディアで「戦後70年」のふり返りを目にしました。

8月5日、陸上競技練習に参加した小学生に「明日は何の日か知っている。」と質問しました。約20人の6年生で答えられた子どもはわずかでした。

休憩時間に広島の原爆の話をすると「まだ学校で習っていないから分からない。」という答えが返ってきました。戦争のことを伝える役割は、学校に委ねられていることを再確認させられた場面でした。

私の祖母は大正3年生まれ、父は昭和7年生まれです。母として見た戦争と子どもとして見た戦争を家庭で間接体験することができました。子どもの頃は、繰り返し聞かされ、少々うんざりしましたが、今では貴重な体験と言えます。

教師になって、間接体験の場を授業にも取り入れました。昭和8年生まれの校長先生が、小学生でも本土決戦に備えて、特攻の訓練をしたことを語ってくれました。その中で「あと何年生きていられるのだろうと、小学生のとき毎日のように思ったんだよ。」という言葉に涙をためて、聞き入っていた子ども達の姿は今も目に浮かびます。

「日本は、二度と戦争をしなかった。戦争をやめたから、今日の繁栄を産みました。」

校長先生は、こう語られて話を結びました。

今年生まれた子ども達が親になる頃、戦後100年になります。日清戦争や日露戦争のように「歴史のひとこま」にならないように教育の現場にいる者として、確実に伝える責任の重さを感じた今年の夏でした。

会員と共に新会員、準会員の歓迎を

校友会 事務局長
石川 潔
（昭和42年卒業）

今年の3月184名の方が卒業され校友会の正会員となられました。心より歓迎と、お祝いを申し上げます。卒業生全員に記念としてクオカードを校友会長より送られました。又特別賞として在学中に功績のあった卒業生を表彰すると共に、チューターとして後輩の学生生活を支えてくれた皆さんに賞状と記念品を贈りました。

卒業生の皆さんが、新たなそれぞれの職場で活躍され、校友会の一員として校友会の場でも活躍頂きますようお待ちしております。

4月1日桜の蕾がほころぶ頃196名の準会員を迎えました。これから2年間自分の目標に向かって意欲に燃えてられる事でしょう。卒業生と共に、併せて心より校友会会員一同、心より歓迎とお祝いを申し上げます。

役員一同、会員同志、若い世代の方々も含め気軽に参加できる、同級生、同窓生同士が交流できる場としての校友会を目指して次の事業に取り組んでおります。

一、会員が母校に、いつでも気軽に立ち寄れる場所、校友会室の開放。

二、卒業生全員に卒業記念品、校友会長賞、表彰者への記念品贈呈、卒業パーティー参列お祝い、卒業生代表二名の方幹事として役員に就任、事業推進に当たり提言採用。

三、敬愛フェスタへの参加、合唱祭、ビンゴゲーム、カラオケ、ダンス大会への会長賞贈呈、ストラックアウト、大道芸の実施、また花火大会への協賛。

四、校友会会報年一回の発行。

五、通常総会の開催、終了後懇親会会費千円、同窓生、同級生、友人との再会、交流の場として活用。

六、校友会ホームページの開設、閲覧。

七、母校のますますの充実発展のための、創立60周年記念事業協賛金への協力に努める等の活動を実施してまいりました。

今年の校友会通常総会の開催は、10月12日の予定です。思い出の「KEIAIフェスタ」は、10月23・24・25日の予定です。

この機会に是非母校に訪れてみませんか、同窓生との出会い、同級生との再会、親友との再会を実現してみてください。

校友会室は本館の3階になります。茶菓子、記念品を用意しておりますので気軽に、休憩方々どうぞ立ち寄りください。

今年は、更なる会員相互の親睦と扶助を図るため、活動の活発化を重点課題として協議を重ねてまいりました。校友会への結集、活動の活発化を図る為、同級会、同期会等への支援、役員手当、旅費日当の改善、ふれあいピアノコンサートへの協賛等を検討しております。会員皆さんのご意見、ご支援を宜しくお願い致します。

高齢化社会にどう過すか。

石橋　裕
(昭和27年卒業)

昭和二十五年四月、千葉敬愛短期大学が、八日市場敬愛高校内に開設された。私は、旧制中学校から新制高等学校に改正、その年から各市町村に新制中学校が新設された。当時戦後の学校は男性教員の不足であった為、旧制中学校卒業生を臨時教員として採用になった。年令十九歳の教師、生徒は中学生。十三歳～十五歳。昭和二十三年頃は、社会的にも終戦処理で物資もとぼしく荒廃間只中である。学校教育も全く環境整備されず、授業は、チョーク一本。教科書は四人に一冊。二年間勤務したが身分も不安定、教師の資格が必要になった。幸い私は大学を志望していたので正に千葉敬愛短期は、救いでありました。早速、志願、新入生第一号の学生であった。そして免許状も、小学校。中学校普通二級免許を取得出来た。学長先生の薫陶、優れた教授先生方に懇切丁寧なご指導を受け感謝感謝である。昭和二十七年三月卒業、四月一日には公立学校に就職。小学校に赴任、以降中学校教員

として通算三十八年。この間管理職として、十一年無事勤められた。続いて教育行政職員として「教育長」数年勤務無事退職出来た。現在は、高齢者対策の一助として、二十年、地域の老人達と楽しく過している。

兎角、私達公務員等は退職後自由の身になって勝手気儘に日々暮らしている方が多い。

特に近年高齢者が年々増加して「共助、公助」が求められている。

大学卒業生OBの皆さんどう過しているでしょうか。

最後に、千葉敬愛短期大学の発展と交友会の役員皆様本当にご苦労様です。

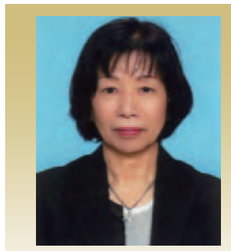
Message
メッセージ

お便りお待ちしております!!

本短大卒業生の近況や思い出を掲載するコーナーです。事務局では会員の皆様のお便りを、お待ちしております。どんなささいな事でも、かまいません事務局までお送りください。

◎原稿郵送先　〒258-8567 千葉県佐倉市山王1-9
千葉敬愛短期大学 校友会事務局まで
FAX:043-486-2200(24時間受付)
千葉敬愛短期大学 ホームページ
http://www.u-keiai.ac.jp/junior/

人生○△□いろいろな形



蜂谷　幸子
(昭和45年卒業)

自然界も私たち人々も、多種多様で当たり前のように変化しながら生きておりますが年齢を重ねていく日々の中で、○△□が脳裏に浮かぶ日々です。

○は、太陽、掛けがえの無い宝物、円満、優秀など

△は、三人寄れば文殊の知恵、底辺があり頂点がある「努力」に繋がります。

□は、安定、安心、スポーツのコート、四角四面、ルールやマナーを感じます。

一人ひとり違って、得意な事があり精一杯生きているに違いないことを、感じながら過ごして降りますが、老婆心ながら時代の変化をひしひしと全身で受け止めております。

一人ひとりの持ち味、できる事を、生かして発揮し仕事に繋がることが何よりです。

列席下さいました。たくさんの先輩や同級生にも祝ってもらいました。

五年前入学したときには、いつもクラス単位で行動することに驚き、「まるで高校の延長だなあ」と思っていましたが、いつの間になかなか居心地の良い場所になっていました。同じ授業を受けて協力し合うことは勿論のこと、体育祭や敬愛フェスタなどの行事を一緒に作り上げていくのは、本当に楽しかったです。男子学生はとても少ないですが、その分結びつきは深かったと思います。学生会長という大役を担い、不安もありましたが、学級の枠を超えてみんなに支えてもらい、やり遂げることができました。先輩たちは「兄貴」後輩たちは「弟」のようでした。

卒業してから三年、初任の学校で四年・二年・六年の担任を務めて、今年は新しい学校で五年生を担任しています。体育主任も任され、忙しい毎日です。教師という仕事は、考えていた以上に大変で、思い通りに行かないこともしばしばです。「自分は教師に向いていないのではないか」とモチベーションが下がることもありました。でも、そんなときに同じ道を歩む同級生達と会って、学生気分に戻ってわいわいやっているうちに、また頑張るエネルギーが湧いてきます。

縁あって、同級生同士で結婚することになりました。私たち二人には、共通の恩師、共通の友達、そして共通の思い出がたくさんあります。私たちの人生において、千葉敬愛短大は一つの「ふるさと」です。これからも仕事をしていく中で何人もの「同郷」の先生に出会うことを楽しみに、そしてその名に恥じないよう、切磋琢磨していこうと思います。

教育実習生と学ぶ

坂下　瑛
(平成26年卒業)

今年度、千葉敬愛短大からの実習生をお預かりしました。幼稚園の先生になり立てほやほやの私が、指導なんてちゃんとできるのだろうかと不安でいっぱいでした。

昨年度は年少組の担任を務めました。単学級ですので、何をするにも計画から一つ一つ教えていただきながら手探りで取り組んできました。指導のプランを細かく立てたつもりでも、なかなか思い通りにはいかず、反省の日々でした。また、運動会や発表会などの大きな行事の準備は本当に大変で、仕事を持ち帰ったり、休日に出勤したりすることも少なくありませんでした。至らぬところだらけでしたが、子ども達の笑顔や保護者の方の温かいお声かけをエネルギーにして、何とか一年間を全うすることができました。

今年度は持ち上がりの年中さん。子ども達のことはだいたい掌握できていますが、昨年よりさらに充実した教育活動を実践しなければなりません。実習生にアドバイスをしながら、改めてこの仕事の難しさを実感しました。そして、自分自身がしっかりねらいを理解しているか、子ども達一人一人の姿を思い浮かべてよりよい計画を立てることができているか、安全面での配慮が十分行き届いているか等々、初心に返って考えることがたくさんありました。「頼りない先輩で申し訳ない。」という気持ちと、「一緒にがんばろうね。」という気持ちで過ごした三週間でした。実習生に一つ一つわかりやすく説明しながら、自分の計画の不十分なところに気づくこともありましたし、よい手本になろうと、いつも以上に子どもとの話し方や接し方に気をつけました。自分の未熟さを痛感すると共に、もっと短大でたくさん勉強したかったなあと思いました。

でも、目の前の子ども達は待っていてはくれません。これからの実践を通して学んでいきたいと思います。

それには、好奇心を持ち、したい事を実践する事。体験に勝るものなしのことわざの知く、様々な事を楽しむ事から心身ともに安定し元気に過ごせることと思います。

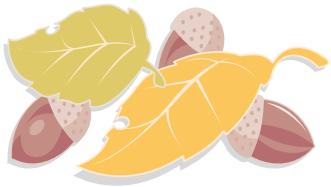
また、いろいろな考えの方がいらっしゃいますので、聞き上手で肯定的に受け止められる、心のゆとりを皆さんが持てて、身近な方々と前向きに過ごせたら良いなと思います。

「先日の新聞記事に教職員の賠償保険加入増」学校のトラブルで、訴えられたり、賠償金を要求されたりする事態に備えての教職員の保険加入者が増えている現状を知り一抹の危機感を感じます。

「個人に責任を求める動きがある」と指摘される状況にも、時代の大きな変化を感じます。学校や自治体、企業など様々な職場における縦の関係、管理者・責任者の役割が希薄になり、個人に直接責任が来るようになっている現場もあることから、このような保険加入増に至っているのかとも思います。

昔と今の良さを生かして、人と人とが心通う長閑な生活を望み、挨拶・きれいな日本語を心掛け、言葉からきれいな行動が出来たら、どんなにか穏やかな生活が出来るのではないか、とも思います。今、高齢者となり昔の自然の中で、僅かな貴重な物資を大切に生活をしていた事を、改めて思いに耽っております。

現在の豊かな物資に感謝しながら、身近な子ども達に、物の大切さを伝え、相手の方へ気配り「挨拶・きれいな言葉遣しリが出来るように、微力ながら仕事をさせていただいております。何時も、○△□を脳裏に浮かべ過ごしてまいります。



敗戦後七〇年に当たって

冨澤　惇
（昭和31年卒業）

今年は敗戦後七〇年。戦争を知る人も少なく、その恐ろしさ愚かさを語る者も……。一端を述べ若い人への参考に供せればと、……。

日本本土が初めて空襲にあったのは小学一年生の遠足の日でした。楽しく街の丘の上まで来た時突然けたたましいサイレンが鳴り、山の上の農学校（現高校）の生徒がサーベルをふりあげ、「先生敵機です。」と叫びました。担任の先生は私達に急いで目と口と耳と鼻を両手で押さえ土手に伏せるよう命令しました。プーンという音を立て西の空から東の方へ一機飛んで行きました。爆弾や下からの高射砲の音もしませんでした。

戦争が烈しくなり通学していた鉄道も廃止、父の経営する運送店も成り立たず生活は苦しく、一棟の庇だけでトラック二台も入る倉庫を三棟も安値で売ってしまいました。食糧事情は悪く、配給は薩摩芋が主でした。父は空き地に南瓜、茄子を作り、家事しかしなかった母も農家から畑を借り野菜作りをしました。

入学式に着たダブルの洋服なども、米と交換され農家の児が着ていました。

学校は、軍隊が使うことになり私達はお寺の本堂での勉強でした。板の間の為膝が痛くて身が入りません。体育は運動場の隅でしていました。ある時訓練中の兵士が上官に何度も殴られていました。戦争は更に烈しくなり町一軒の蔵元も艦載機に攻撃されました。

そんな中、東京の叔父家族が焼け出され、引越して来ました。五人家族なので売らないで残しておいた一棟の倉庫を大工さんに頼み、改築し住んでいただきました。我が家の隠居は、既に陸軍中尉殿の留守家族が居住していたので仕方が無かったのです。

授業中先生が、尚君（仮名）のお父さんが戦死しましたと言って泣きくずれました。次の日から尚君は学校に来なくなりました。新聞配達などで家計を助けているとのこと。また、近くに住む花子が桑の実を食べ赤痢で死んでしまいました。葬式は簡素なものでした。

休日の九時過ぎかと思いますがカラスの大軍（大群）のような艦載機（グラマン）が押し寄せバッバッバ……と撃ってきました。動くものは無差別です。子ども、女性、お年寄りも関係ありません。

戦後、叔父達は東京に返りましたが、数年後過労で亡くなりました。近所に租界していた黒川さんは、東京に返れず焦って気が変になり死んでしまいました。

これが、戦争の現実であり悲惨なものです。

大震災に思う

小島　とみ子
（昭和44年卒業）

猛暑続きに台風連発の今夏も、漸く爽やかな秋を感じる頃となりました。

千葉県は割合自然災害の少ない土地柄だと思いますが、関東にあっても大暴風雨に見舞われたり、架線事故など様々な災害が後を絶ちません。常に台風の目に晒される南西諸島や九州の方々には、一層大変である事の思いを深くしております。

東日本大震災から4年8ヶ月、その後も御嶽山の爆発、箱根や桜島の活動が懸念されておりますが、私はこの春ネパール、エベレスト街道をトレッキングしてきました。

2千M～4千Mの山道をポーターの助けを受け一週間の行程を完破し、十分に燃焼して帰国した。まさに、一ヶ月後の4月25日、ネパール大地震が発生し、私の歩いた山の集落、下山してから観光して回ったカトマンズの町、王宮の周辺や由緒ある寺院、そして庶民の暮らす家屋の凄まじい倒壊に目を奪われました。

8500名以上の犠牲者をだし、果たして山で世話になったポーターや山岳ガイド達は無事だったのか、只々連日の報道に耳目を傾けるのみでした。早や5ヶ月が経過し、今は情報も薄くなりつつありますが、大勢の被災者が苦悩している姿を思うと、すぐにも現地へ行きたい衝動に駆られます。

東日本大震災には大勢のボランティアが各地から駆けつけ、瓦礫の撤去や被災者救援の姿をテレビで見続けてきましたが、私には、当初ボランティアをしようという勇気がありませんでした。余りの惨状に近寄りがたい畏怖が先にあり、3年を経て漸くボランティアへ向かう事が出来ました。南三陸町や南相馬市へ何度となく足を運び、今は原発による家屋からあらゆる物を廃棄物として大型トン袋へ詰め込む作業をしてきます。それは真新しい布団や食器、書籍などありとあらゆる物を感情抜きに処理することです。

ネパールに思いを馳せる時、私に出来る事は細やかな幾度かに亘る寄付金と復興を祈るのみです。ボランティアで学んだ言葉に『出来る人が出来る時に出来る事をする』海外は遠いけれど無理せず継続して行こうと心に決めております。

ふるさと・千葉敬愛短大

坂下　諒
（平成24年卒業）

この二月に、千葉敬愛短大で同じクラスだった富田志保と結婚しました。挙式当日は、前学長の伊藤先生、担任の山中先生がお忙しい中ご

校友会のお手伝いとして

伊藤　ツネ子
（昭和49年卒業）

卒業して40年。千葉の穴川から、佐倉の山王に移転したとは聞いていたのですが、初めて山王の学内に入りました。山王の広いグラウンドを見て、体育の授業でサッカーをしたことを思い出しました。

ひょんなことから、校友会事務局に籍を置くことになりました。よろしくお願いします。校友会員相互の親睦を深め、学生との交流を密にして校友会発展の一助になればと、日々努めていきたいと思っています。

校友会の発展運営のため、会員皆様方の御協力をお願い致します。

先輩方からの襷
全国私立短期大学体育大会50回連続出場表彰を受けて

学生部長　大野　雄子

去る8月3日(月)～6日(木)、全国私立短期大学体育大会(主催:日本私立短期大学協会)が開催された。開会式は、高円宮妃久子殿下のご臨席のもと駒沢オリンピック公園総合運動場　体育館で行われ、本学は、この記念すべき第50回大会に於いて、50回連続出場の栄誉を讃えられた。本表彰を受けた短期大学は、全国の短期大学の中でわずか3校のみである。赤銅色の団旗を翻しながら行進する学生一人一人の姿が躍動感に満ち、人一倍輝いて見えた。

「受賞おめでとう。よかったね」と学生に声をかけると、戸惑いつつ「私たちではなく、先輩方が築き上げた成果です」と返ってきた。

今年の夏は気温35度を超える猛暑が続いたが、8月1日に前期試験を終えたばかりの2年生は、翌日が日曜日にも関わらず、練習に励んでいた。また、日々の部活動は、実習や授業を全力でこなしながらであるため、精神的にも肉体的にも疲労したことであろう。考えれば、これが50年間続けられて来たのだ。「先輩方からの襷」これを繋ぐのも大変なことであるとは思うが、先の学生のように、謙虚に直向きな努力をコツコツと積み重ねてきた成果なのであろう。この栄誉は、校友会の皆さまと喜びを分かち合ってこそ輝きを増すものなのだ。

校友会の皆さまには、どうか青春時代の一ページを振り返っていただき、皆さまが日々築いて来られた部活動の楽しさや苦しみ、全力で打ち込んだ努力や感動が現在も尚、現役学生によって受け継がれている喜びをお伝えし、共有したい。

そして、心より感謝をすると共に、この実績を今後も60回、70回・・・100回と作り上げて行けるよう希望に燃えている。

第10回「ふれあいピアノコンサート」開催について

校友会会員の皆様へ

本学では例年12月に「ふれあいピアノコンサート」を開催しております。

本コンサートは、本学における教育内容の成果を披露することを目的として始まり、今年で10回目を迎えます。毎回、千葉市生涯学習センター音楽ホールで開催しております。音響設備の整った会場を使用することで、学生の演奏表現能力に対する意識を高め、一体感のある演奏を披露しております。また、当会場は県内各地から訪れ易く、たくさんの方々に練習を重ねた学生の成長をご覧いただくことは保護者や高校生も含めた来場者に、本学についての興味・関心を深めていただくきっかけにもなってきました。

今年度からはより広く大きく展開させたいと考えており、本学卒業生で構成される校友会にもご支援を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

皆様、是非「ふれあいピアノコンサート」にお越しください!

千葉敬愛短期大学 学長　　明石　要一

日 時 平成27年12月11日(金)
18:00開演(17:30開場)

場 所 千葉市生涯学習センター
千葉市中央区弁天3丁目7番7号
TEL:043-207-5811

千葉敬愛短期大学校友会

平成25年度決算書

（平成25年9月1日～平成26年8月31日）

〈 収入の部 〉　（単位：円）

項目		予算額（A）	決算額（B）	増減A－B（△は減）	備考
前年度繰越金		4,961,733	4,961,733	0	
会費	正会員	30,000	0	30,000	
	準会員	6,000,000	5,970,000	30,000	個人5,970名(@1,000)＋新会員30
総会(懇親)会費		20,000	10,000	10,000	懇親会参加者10名＋0名×@1,000
雑収入		30,000	24,159	5,841	預金利息および預け金手数料収入
合計		11,041,733	10,965,892	75,841	

〈 支出の部 〉　（単位：円）

項目		予算額（A）	決算額（B）	増減A－B（△は減）	備考
総会	印刷、返信用ハガキ等	65,000	65,100	△ 100	会報と同送
	懇親会費	150,000	150,000	0	0名出席
会報印刷、郵送費		835,000	817,971	17,029	
大学行事参加費		1,120,000	977,029	142,971	学生部長分、来賓の懇親会費、会報ご祝儀
会議費		150,000	97,958	52,042	
名簿訂正、追加		100,000	100,000	0	
事務局費		420,000	248,060	171,940	
旅費交通費		100,000	40,520	59,480	
学園基金積立		4,000,000	4,000,000	0	
予備費		4,091,733	886,864	3,204,869	前年度一切繰越金(@1,000)＋会費(@1,000)＋会報ご祝儀(@1,000)＋懇親会キャンセル料(@1,000)＋預け金利子(@1)
合計		11,041,733	7,383,501	3,658,232	

収入支出差引残額　3,582,391円
次年度繰越金　3,582,391円　　京葉銀行佐倉山王出張所　3,582,391円

〈会計監査報告書〉
上記決算の諸帳簿を精査したところ、適正であることを認めます。

平成26年9月8日
会計監査　新野勝一　㊞

平成26年度予算書

〈 収入の部 〉　（単位：円）

項目		平成25年度予算額（A）	平成26年度予算額（B）	増減A－B（△は減）	備考
前年度繰越金		3,582,391	4,961,733	△ 1,379,342	
会費	正会員	0	30,000	△ 30,000	
	準会員	6,000,000	6,000,000	0	個人5,970名(@1,000)＋新会員30
総会(懇親)会費		20,000	20,000	0	0名決算に基づく
雑収入		30,000	30,000	0	0円決算に基づく
合計		9,632,391	11,041,733	△ 1,409,342	

〈 支出の部 〉　（単位：円）

項目		平成25年度予算額（A）	平成26年度予算額（B）	増減A－B（△は減）	備考
総会	印刷、郵送費	70,000	65,000	5,000	印刷業者の見積書を根拠に基づく
	懇親会費	162,000	150,000	12,000	印刷業者との見積書を根拠に基づく
会報印刷、郵送費		860,000	835,000	25,000	印刷業者との見積書を根拠に基づく
大学行事参加費		1,100,000	1,130,000	△ 30,000	学生部長分、来賓の懇親会費、会報ご祝儀
会議費		110,000	150,000	△ 40,000	印刷業者と基づく
名簿訂正、追加		100,000	100,000	0	
事務局経費		300,000	420,000	△ 120,000	
旅費交通費		100,000	100,000	0	
学園基金積立		4,000,000	4,000,000	0	
予備費		2,830,391	4,091,733	△ 1,261,342	
合計		9,632,391	11,041,733	△ 1,409,342	

学校法人千葉敬愛学園

平成26年度 学校法人千葉敬愛学園決算報告

資金収支計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで　（単位　百万円）

支出の部 科目	金額	収入の部 科目	金額
人件費支出	3,256	学生生徒等納付金収入	3,408
教育研究経費支出	923	手数料収入	107
管理経費支出	188	寄付金収入	37
借入金等利息支出	50	補助金収入	1,241
借入金等返済支出	250	資産運用収入	50
施設関係支出	24	資産売却収入	1,368
設備関係支出	119	事業収入	35
資産運用支出	2,792	雑収入	258
その他の支出	484	前受金収入	1,618
〔予備費〕		その他の収入	1,212
資金支出調整勘定	△ 340	資金収入調整勘定	△ 1,812
次年度繰越支払資金	2,551	前年度繰越支払資金	2,775
支出の部合計	10,297	収入の部合計	10,297

消費収支計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで　（単位　百万円）

支出の部 科目	金額	収入の部 科目	金額
人件費	3,581	学生生徒等納付金	3,408
教育研究経費	1,458	手数料	107
管理経費	204	寄付金	41
借入金等利息	50	補助金	1,241
資産処分差額	4	資産運用収入	50
徴収不能額	0	資産売却差額	2
徴収不能引当金繰入額	8	事業収入	35
		雑収入	187
消費支出の部合計	5,305	帰属収入合計	5,071
当年度消費支出超過額	540	基本金組入額合計	△ 306
前年度繰越消費支出超過額	6,978	消費収入の部合計	4,765
基本金取崩額	0	帰属収支差額	△ 234
翌年度繰越消費支出超過額	7,518		

貸借対照表

平成27年3月31日　（単位　百万円）

資産の部 科目	金額	負債・基本金・消費収支差額の部 科目	金額
固定資産	14,815	固定負債	2,905
有形固定資産	12,142	流動負債	2,487
その他の固定資産	2,673	基本金	19,892
流動資産	2,951	消費収支差額	△ 7,518
資産の部合計	17,766	負債、基本金及び消費収支差額合計	17,766

【平成26年度決算の概要】

平成27年5月28日(木)に開催された理事会及び評議員会において、学校法人千葉敬愛学園の平成26年度決算が承認されました。

資金収支では、前年度繰越支払資金27億7,500百万円を含めた資金収入が102億9,700万円となり、ここから当年度資金支出合計77億4,600万円を控除した次年度繰越支払資金が25億5,100万円となっています。

消費収支では、帰属収入が50億7,100万円、消費支出が53億500万円、帰属収入から消費支出を差し引いた帰属収支差額が2億3,400万円の支出超過となっています。また帰属収入から基本金組入額3億600万円を控除した消費収入が47億6,500万円、消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は5億4,000万の支出超過となっています。

平成27年度 学校法人千葉敬愛学園予算書

資金収支予算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで　（単位　百万円）

支出の部 科目	金額	収入の部 科目	金額
人件費支出	3,181	学生生徒等納付金収入	3,595
教育研究経費支出	1,118	手数料収入	102
管理経費支出	219	寄付金収入	47
借入金等利息支出	45	補助金収入	1,184
借入金等返済支出	250	資産売却収入	230
施設関係支出	135	付随事業・収益事業収入	33
設備関係支出	72	受取利息・配当金収入	11
資産運用支出	545	雑収入	192
その他の支出	353	借入金等収入	0
〔予備費〕	30	前受金収入	1,458
		その他の収入	399
資金支出調整勘定	△ 224	資金収入調整勘定	△ 1,782
翌年度繰越支払資金	2,296	前年度繰越支払資金	2,551
支出の部合計	8,020	収入の部合計	8,020

事業活動収支予算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで　（単位　百万円）

	支出の部 科目	金額	収入の部 科目	金額
教育活動収支	人件費	3,116	学生生徒等納付金	3,595
	教育研究経費	1,648	手数料	102
	管理経費	234	寄付金	47
	徴収不能額等	9	経常費等補助金	1,172
			付随事業収入	34
			雑収入	226
	教育活動支出計	5,007	教育活動収入	5,176
	教育活動収支差額			169
教育活動外収支	科目	金額	科目	金額
	借入金等利息	45	受取利息・配当金	11
	その他の教育活動外支出	0	その他の教育活動外収入	0
	教育活動外支出計	45	教育活動外収入	11
	教育活動収支差額			△ 34
	経常収支差額			135
特別収支	科目	金額	科目	金額
	資産処分差額	0	資産売却差額	0
	その他の特別支出	181	その他の特別収入	16
	教育活動支出計	181	教育活動収入	16
	特別収支差額			△ 165
	〔予備費〕	20		
			基本金組入前当年度収支差額	△ 50
	前年度繰越収支差額	△ 7,518	基本金組入額合計	△ 311
	翌年度繰越収支差額	△ 7,879	当年度収支差額	△ 361

学校法人会計基準の改正により、平成27年度から従来の消費収支予算書が事業活動収支予算書に変更となりました。新しい事業活動収支予算書では、収支を経常的なものと臨時的なものに、さらに経常的な収支を教育活動と教育活動外に分けて表示しています。